

# 平成22年度『田んぼの学校』が開校！！



開校式(善郷小)



レーキを使った代かき(福島第四小、平石小)



肥料まき(柳津小)



田植え(阿武隈小)

平成18年度から始まりました『田んぼの学校』も、5年目を迎えました。今年度も県内7方部8つの小学校の3、6年生約380人が参加し、「田んぼの学校」が元気に開校しました。

今年度はこれまで、4月の種まきから始まり、5月には泥んこになりながら田植えを実施しました。子どもたちの歓声が農村に響いていました。

これから「草取り」、「生きもの調査」や「稲刈り」など農業の大変さや、すばらしさを体験しながら、それぞれの学校で「実りの秋」を迎えるために頑張っています。

学校の子どもたちが元気に活動している姿を見かけましたら、温かいご声援をよろしくお願いいたします。

【今年度の参加校】

○県北：福島市立第四小学校(5年生) 平石小学校(5・6年生) ○県中：須賀川市立阿武隈小学校(5年生) ○県南：矢吹町立善郷小学校(5年生) ○会津：柳津町立柳津小学校(4・5年生) ○南会津：南会津



田植え作業前の表情(富岡小)



昔ながらの方法での田植え(南郷第二小)

町立南郷第二小学校(5年生) ○相双：富岡町立富岡第二小学校(3年生) ○いわき：いわき市立夏井小学校(5年生)

# 農のくくく 空のくくく 間のかん

第46号

発行所 農林水産部 農村計画課

## 県中

### 県内各地方部からののお便り

#### 『ほ場整備を契機とした集落営農への取り組みについて』(経営体育成基盤整備事業 九生滝地区)

九生滝(くりゆうたき)集落(全53戸)は、阿武隈山系にある平田村の北東部に位置し、稲作と葉たばこ、肉用牛(繁殖)の複合経営による営農が行われています。

平成18年度に、集落内農地の約6割にあたる28.9haにおいて、経営体育成基盤整備事業に着手し、面工事は昨年度までに完了しました。本年度は、平成23年度の完了に向けて、湧水処理などの補完工事を行う予定で

当初、担い手農家3名による農用地集積を目指して事業に着手しましたが、条件が不利な中山間地域にあつては、個別農家による営農は将来行き詰まること懸念されました。そこで、

農用地利用改善団体を立ち上げ、工事の進捗とともに営農方式について話し合いを重ねました。

その結果、集落全体を一つの経営体とする集落営農を目指すことに意見が集約され、平成20年9月に構成員9名による集落営農組織「グリーンファーム九生滝」を設立し、平成21年1月に特定農業団体として認定を受けました。

「グリーンファーム九生滝」の構成員は現在23戸で、水稲、園芸、畜産の3つの部会ごとに収支の健全化に向けた取り組みを行っています。そして、整備されたほ場において、水稲(7ha)のほか、転作作物として稲発酵粗飼料(WCS)(9ha)や、アスパラガス、牧草の作

付けを行っています。

平成24年には法人化を予定している、『みんなで協力「農場」をキヤッチフレーズに、全農家の合意形成による組織強化を図り、集落内全農地の活用を担っていくことを目指しています。

本取組みは、ほ場整備を契機として集落営農推進へ地域が一体となった優良事例と言えます。

市街地を含む約45haの農地が洪水被害を受けました。

このため、湛水する区域や時間の低減を図るため、平成23年度までの9か年計画で排水機場2箇所を建設中です。このうちの「川中子」は、今年度に直径1,000mmの横軸斜流ポンプ2基の据付を行い、平成23年度の完成後は規定以上の水位上昇があれば、最大毎秒4.67m<sup>3</sup>の水を夏井川へ排水することが可能となります。また、この下流湛水区域を解消するため「川中子II期地区」としてゲートポンプ場(径600mm、1基)を併せて設置しています。

このように農業用施設は、農業のみならず、国土の保全や生活の安全・安心の確保など、重要な社会資本となつていきます。

## いわき

#### 『川中子排水機場』について

湛水防除事業は、排水機・排水樋門・排水路などの施設の整備を行い、湛水被害の発生を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図るとともに、地区流域内住民の安全を確保するために実施しています。

川中子(かわなご)地区は、いわき駅北側約1kmの好間川と夏井川が合流する地点に位置し、この両河川に挟まれた上流域約450haからの基幹排水路となつている小谷作川下流両岸での湛水被害が頻発し、平成12年には



集落営農による稲の刈取の様子



川中子排水機場の全景

## トピックス

#### 『平成22年度優良建設工事について』

建設技術の向上と発展のため、「優良建設工事」が農林水産部関係で6部門7件、土木部関係で10部門12件選定されました。農業農村整備事業関係では、3部門3件の工事が選ばれました。

7月5日には、「サンパレス福島にて「優良建設工事表彰式」が行われます。予定

○水路部門  
【事業名】かんがい排水事業(一般型) 新安積(一期)地区(須賀川市) 積(一期)地区(須賀川市大桑原) 須賀川市大桑原地区(施工)株式会社  
【工事概要】水路工 L11102.8



新安積(一期)地区(須賀川市)



津島地区(浪江町)



新田作地区(常葉町)

○農道部門  
【事業名】中山間地域総合整備事業(一般型) 津島地区(工事場所) 浪江町大字赤宇木地区(施工)株式会社  
【工事概要】道路工 L11138.2m

○ほ場整備部門  
【事業名】経営体育成基盤整備事業新田作地区(工事場所) 田村市常葉町新田作地区(施工)富士工業株式会社  
【工事概要】区画整理工 A119.0ha



農村計画課長 熊耳 倉城

今年の4月から農村計画課へ参りました熊耳です。どうぞよろしくお願ひします。農村計画課は、西庁舎6階の北西端に位置し、16名の職員で

本庁各課の紹介

只見町土地改良区は、昭和56年設立の受益面積458ha、組合員数933名の土地改良区です。現在は、昭和58年から平成7年にかけて実施された県営ほ場整備事業只見地区の償還年度の最終年を迎え、いよいよ償還業務も終わるところであります。新たに、「県営経営体育成基盤整備事業中朝日地区」が採択となり、事業初年度に入ったところです。中朝日地区は、受益面積254ha、地権者110名の地区であり、平成21年度に新設された

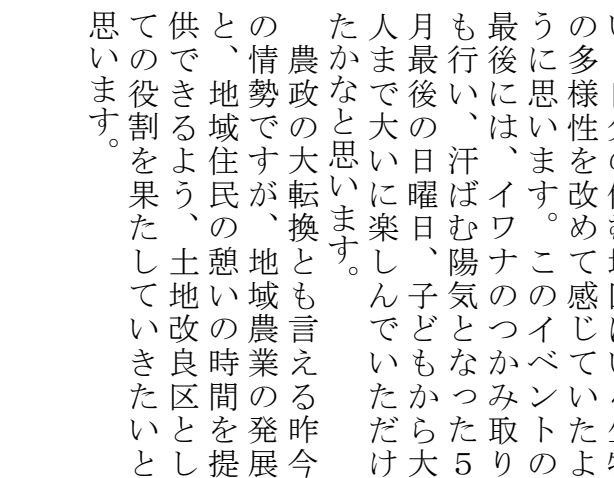


「水の郷ウォーク」後の地区「早苗ぶり」で落語を披露する山内翔さん

地域に根ざした水士里ネット 二十一世紀土地改良区創造運動の推進 只見町土地改良区 山内翔さん

「農業農村整備事業の調査設計及び管理計画、土地改良団体の運営並びに国土調査事業」などの業務を担当しております。国では、食料の安定供給及び食料・農業・農村政策を国の責務や戦略とすること、また国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指す「あらたな食料・農業・農村基本計画」を本年3月末に閣議決定し、ここ数年で一層深刻となっている我が国の農業・農村の再生を図ることとしております。一方、本県においても「人がほほえみ、地域が輝く」ほっとする、ふくしま」を基本目標とする「福島県総合計画 いきいきふくしま創造プラン」及び

「面的集積型」の基盤整備を進めています。中山間地特有の規模農家が多数を占めるため、少しでも負担を減らしたいという地元の要望もあり、この事業を選択したところです。中朝日地区では、認定農業者に集積する予定ですが、将来的には集落営農組織で土地利用及び集積を行うことを目標としております。また、5月30日には「水の郷ウォークイン梁取(やなとり)」を開催しました。このイベントは、農地・水・環境保全向上対策梁取集落保全会との共催で、地域の子どもたちや地域住民に堰や揚水ポンプ場、集落排水施設といった水施設を見学していただく、この持ちつ



「水の郷ウォーク」集落排水処理場の水質試験の様子

機能や重要性について広く学習してもらおうことができました。また、田んぼの生き物調査を行い、自分の住む地区にいる生物の多様性を改めて感じていたよりに思います。このイベントの最後には、イワナのつかみ取りも行い、汗ばむ陽気となった5月最後の日曜日、子どもから大人まで大いに楽しんでいただけたかなと思います。農政の大転換とも言える昨今の情勢ですが、地域農業の発展と、地域住民の憩いの時間を提供できるよう、土地改良区としての役割を果たしていきたいと思ひます。

「農業農村整備事業の調査設計及び管理計画、土地改良団体の運営並びに国土調査事業」などの業務を担当しております。国では、食料の安定供給及び食料・農業・農村政策を国の責務や戦略とすること、また国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指す「あらたな食料・農業・農村基本計画」を本年3月末に閣議決定し、ここ数年で一層深刻となっている我が国の農業・農村の再生を図ることとしております。一方、本県においても「人がほほえみ、地域が輝く」ほっとする、ふくしま」を基本目標とする「福島県総合計画 いきいきふくしま創造プラン」及び



「水の郷ウォーク」生き物調査の風景

農村整備フォトギャラリー



前田地域保全会(飯館村)

相双地方の農村風景



体耕田を利用した秋に咲くひまわり畑です。たくさんの方が足をどめ、一面のひまわりに入りました。今年の秋も満開になる予定です。

農業総合センター便り

福島県農業総合センターは、平成18年に旧農業試験場や農業短期大学などを統合して新たに発足した、当県の農業技術の開発・育成を担う研究機関です。センター本部(郡山)には農業土木の研究員が2名在籍しており、土地改良法に定められている「環境への配慮」を実現するための整備技術の開発に取り組んでいます。その中の一つとして、現在、生態系に配慮した田んぼの水路等に関する研究をおこなっています。水路と水田を結び、絶滅が危惧されているメダカなどの生息を助けるための水田魚道の開発や、冬に水田に水をはる冬期湛水(冬水田んぼ)が、営農や生態系に及ぼす影響についての調査をしています。また、これまでには、水路に

「食」といきいきと暮らせる『ふるさと』の創造」を基本目標とする「農林水産業振興計画 いきいきふくしま農林水産業振興プラン」が本年度からスタートしたところであります。事業の見直しや平成22年度国の農業農村整備事業予算が半減されるなど大変厳しい環境にありますが、「いきいきふくしま農林水産業振興プラン」の具現化に向け、計画的な農業農村整備事業の推進を図って参りました。皆様のご支援とご協力をいただき、ますますよろしくお願ひします。

その中の一つとして、現在、生態系に配慮した田んぼの水路等に関する研究をおこなっています。水路と水田を結び、絶滅が危惧されているメダカなどの生息を助けるための水田魚道の開発や、冬に水田に水をはる冬期湛水(冬水田んぼ)が、営農や生態系に及ぼす影響についての調査をしています。また、これまでには、水路に

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統文化などが溶けあつた空間のことです。

動物など落下したものが脱出できないが、坂道が付いている生物の脱出に、造り出した構造を開発して、整備された生態系配慮施設の効果を検証し、生態系の回復状況やその課題等を明らかにしています。当センターは、年末年始を除き土日も開所しており、研究成果の展示や展示農園・温室などで、誰でも自由に見学することができ、また9月4、5日にはセンター祭りも開催されますので、皆さまぜひ足を運びください。

動物など落下したものが脱出できないが、坂道が付いている生物の脱出に、造り出した構造を開発して、整備された生態系配慮施設の効果を検証し、生態系の回復状況やその課題等を明らかにしています。当センターは、年末年始を除き土日も開所しており、研究成果の展示や展示農園・温室などで、誰でも自由に見学することができ、また9月4、5日にはセンター祭りも開催されますので、皆さまぜひ足を運びください。

カエルが脱出しやすいスロープ付水路の構造. 研究の目的, 成果の内容, 効果の検証, 成果の活用および留意点. Includes a table with columns for '水路の構造', '脱出率(%)', and '特徴'.

お知らせ. 福島県のHPには、農林水産業に関する様々な情報が掲載されています。中でも『ふくしま農林水産ポータル』サイトには、県産品に関する情報や直売所、グリーンツアーリズムに関する情報などが暮らした役に立つ情報が満載です。ぜひ一度アクセスしてください。

編集後記. 前号からこの『農空間』は県のホームページに掲載し、農村の整備を県民の皆様にも知ってもらえるようにしました。どなたでも読みやすく、親しみやすい紙面を目指していきたいと思ひますので、たくさんの方の情報提供をお待ちしています。(S・T)